

- 九州においては地域の歴史文化・自然・暮らし・伝統等の魅力的な観光資源が豊富に存在しており、それらを組み合わせた体験型コンテンツについても数多く造成されているが、コンテンツ等を通じてその地域の本質的な魅力を伝えるにはガイドの存在が必要不可欠である。
- さらに、ガイドの質はコンテンツの質や地域全体の印象にも直結するため、満足度が高く深い体験価値を提供することにより滞在期間・消費額の向上や地域社会と観光の好循環の構築のためにも、経験豊富なガイドの育成や活用もまた重要であると考えられる。
- 今後、国全体として2030年までに訪日外国人旅行者数6000万人・旅行消費額15兆円を目指していくには、新規の訪日客だけでなく、リピーターを獲得していくことも重要となる。そのためには地域の本質的な魅力を伝え、再訪意欲を向上させることが可能な経験豊富なガイドの育成・活用が急務となることから、本事業では九州のガイド団体などと連携のうえ新規ガイドの育成と並行して既存ガイドの有効活用も含めた訪日外国人の受入環境整備体制について検証する。

1. 事業実施地域の現状・課題

- 我が国における全国通訳案内士の数は令和6年4月時点で27,312名となっているが、その多くは大都市圏に偏っており、九州においては1,107名（全国比4%）とその数は極めて少ない。その他九州管内では地域通訳案内士制度を導入している自治体も複数あるが、総じてインバウンドに対するガイド人材の不足は明らかな状況。
- また、九州インバウンドの特徴として、全国と比較して地理的關係から東アジアからの旅行者が多いことやクルーズ船による寄港者が多いことなどが挙げられるが、全国通訳案内士のうちその多くは英語での登録が多く（73%）、かつ、クルーズ船による寄港に対しては寄港ごとに多くのガイド人材が必要になるなどの課題があるため、多言語に対応したガイドの育成と並行して既存の経験豊富なガイドが少数でもクルーズ船寄港時などの大量のガイド人材が必要な場面にも対応可能な仕組みづくりが急務。

2. 事業概要（事業実施期間：令和7年7月～令和8年3月）

＜事業主体＞

国土交通省九州運輸局【受託事業者：（株）JTB福岡支店】

＜連携主体＞

ガイド団体（K-iTG）、公共交通事業者、
観光関係の事業者・団体（旅行会社やバス協会）等

＜取組概要＞

（1）ローカルガイド人材の活用等に関する実証事業

- 座学研修（8月）：ガイドや関係スタッフに対して実証前に座学研修を実施。（ガイド研修およびデジタル技術の活用方法の講習など）
- 実地研修（9月）：講師となるガイドのガイディングをデジタル技術（Zoom等のWEB会議システム等）を活用し、ツアー中の複数のバス車内や現地観光中の多数の参加者に共有する実証実験を実施。実証後、事業全体における効果検証や新たな課題把握・改善策の整理や参加者の満足度などをアンケート調査のうえ把握・整理する。

（2）検討会等の開催

- 検討会（11月）：（1）②の実証実験後、連携主体などを構成員とした検討会を開催し、今後に向けた課題の整理・事業効果の検証等を実施する。
- 成果発表会（12月）：関係者に向けてオンラインによる成果報告会を実施し、ガイドの人材不足に課題を抱える地域に横展開することにより、課題解決の一助とする。

3. 目標値、効果検証・事業評価の手法

■ローカルガイド人材の活用等に関する実証実験

- 座学研修：1回
- 実地研修：1回

■検討会等の開催

- 検討会の開催（リアル）：1回
- 成果発表会の開催（オンライン）：1回

■結果分析・検証結果を踏まえた、改善策等の整理（連携先などからの意見も聴取）

- 座学研修：座学・実地研修の有効性や研修参加者の満足度に対する改善策
- 実地研修：ツアー全体にかかるガイディング手法の有効性や参加者の満足度に対する改善策

4. 次年度以降の取組予定

・実証事業を通じて、システムに関する課題や有効性など確認できたことから、今後は、観光客（有償）をモニターツアー等、更なる実践を通じて、より有効なシステムへと磨き上げ、実装を目指していく。

・本実証事業における成果について、今回事業の対象とした地域以外にも、九州全域や全国にわたってガイドの人材不足対策の一つの手法として幅広く情報展開することにより取組を浸透させていく。